委員会活動についてのご意見・ご要望	
行政機関等（知事会、市長会、職能団体）に幅広く目に触れるように引き続き周知をお願いします。	<p>貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。委員会が現在の形になってから年月も経ちましたので、ミッションを再確認した上で、グループの議論の進め方や年次報告書の作成のプロセスについて、委員会で今一度議論し、真に学会員や学会のお役に立てるような活動を推進していきたいと思えます。引き続きご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
幅広い公衆衛生課題を俯瞰するうえで、有用性が高いレポートを毎回楽しみにしております。自分の専門領域はもちろんですが、専門以外のトレンドを把握するのに役立っています。	
毎回、とても参考になるレポートで気付かない視点や情報が得られています。	
<p>委員会の方向性の確認と各課題の報告書のトーンの統一を図ってほしい。コロナ下で対面で議論する機会が減ったこともあり、個別課題ごとにまとめ方が大きく異なってしまったと感じる。協会の報告書ではなく、学会の報告書であり、学会の一委員会の報告書であること。学問的なエビデンスがどこまであり、どこが不足しているか、今後どのような研究が要るのか、その場合に学会として大規模な共同研究を行うべきなのか、あるいは学会として社会に提言すべき内容まで研究は深化したのか、最新の研究をもとに整理することがミッションだったはず。</p> <p>個別に指摘することは避けるが、各グループごとに各課題について議論したうえで報告書とすること、さらに委員会全体としても各グループからの報告書を吟味する機会をつくることを、より丁寧に行ってはどうか。</p>	
非常によい年次報告書だと思います。幅広い分野にわたる公衆衛生学的問題について、情報を得ることが出来ました。年次報告書と代議員からの意見は、学会のホームページで公開されているようですが、もっと多くの方に読んで頂ければさらによいと思えます。	
専門家の先生方に公衆衛生学的な課題をまとめて頂き、大変勉強になりました。できれば、意見書をWordファイルで配布頂けると助かります。	
専門家の先生方のご尽力に感謝いたします。	

2021/22年度公衆衛生モニタリング・レポート年次報告書に対する代議員（含理事）意見調査結果（2022年11月実施）

課題番号	ご意見	グループ名	回答
1	変異型では若者に接種して高齢者を守る傾向があるので優先順位が高い方が評価は優先されていないのかもしれない。	疫学・保健医療情報、保健行動・健康教育、国際保健	貴重なご意見ありがとうございます。考察の参考にさせていただきます。
1	「医療崩壊防止」は重要なテーマと思います。これに関連して流行時に保健所、市町村保健センター等の通常保健活動（対人、対物サービス）は、十分実施できたか？（機能したか？）に関心があります。2020年、2021年は自殺、性感染症が増加しました。COVID-19感染者が増加する中で、例えば、保健所の精神保健対策、感染症対策（相談、無料・匿名検査）、市町村の保健教育などは、通常通り実行可能であったか？など、評価する必要はないでしょうか？	疫学・保健医療情報、保健行動・健康教育、国際保健	大変重要なお意見をありがとうございます。市町村等のコロナ対策に関してはすでに公衆衛生雑誌でも報告があったようですが、それ以外の業務への影響については含まれていないようです。とても重要な点と考えますので、本WGによる調査を前向きに検討いたします。
2	非常に重要と思います。一般の人が理解出するようなデータ、根拠を示して説明すべきと思います。	疫学・保健医療情報、保健行動・健康教育、国際保健	コメントありがとうございます。報告書の内容は「公衆衛生情報」に掲載させていただきましたが、何らかの形で一般の方への情報提供ができるよう検討いたします。
3	<p>【解決の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長時間メディア利用や運動不足、親子のルールづくりや親子の団らんなど家庭生活の充実は、コロナ前から、小児科学会や小児保健学会などで長らく議論されてきた課題である。コロナ前までは具体的にどう取り組み、どこまで改善されたのか、コロナ禍で新たな課題が発生したのか、従前からの課題に拍車がかかっただけなのか不明で、コロナ前における様々な子どもの健康影響に関する課題に関する記載と代わり映えがしない。本学会として特色ある（深掘りした）検討と解決に向けた取組が望まれる。 「未受診者が増えていることから…」の「未受診者」が何を指しているか不明であり、「～の未受診者」などの補足が必要である。 <p>【学会への提言】</p> <p>「歴史の記録」として残すだけなら解決にはつながらないと思う。</p>	親子保健・学校保健	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り長時間メディア利用や運動不足は、課題としてはコロナ前から存在しますが、報告書に引用した近視予防フォーラムの調査「新型コロナウイルスによって変化した子供の生活実態」にあるように、コロナ禍でより深刻度が増したと考えます。さらに、コロナ禍で前倒し実施となったギガスクール構想により児童・生徒のインターネット接続時間がさらに長時間化することが予想され、長時間メディア利用の中でも特にインターネット依存やゲーム障害の有病率上昇が懸念されます。そのため、有病率のモニタリング、対処法のエビデンスとなる疫学研究の実施、啓発活動（メディアと連携した一般国民に対する啓発活動や、学校保健委員会、PTA、養護教諭研修会等の公衆衛生現場における啓発活動）が、解決に向けた取り組みとして重要で、現状ではモニタリングやエビデンスがとくに不足していると考えます。 「未受診者」とは、報告書内に記載のある全国保険医団体連合会が実施した学校健診後治療調査における「健診要受診者における未受診者」のことを指します。

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
3	子供のころから有症状は休む（登校、出勤等、他へうつす行為に注意する）ことの重要性理解の取り組み（教育）、校医の役割や保健委員会の機能についても検証が必要と考えます。	親子保健・学校保健	ご意見、ありがとうございます。頂戴したご意見を踏まえ、今後、検討していきたいと思います。
3	COVID-19禍において、昼食時の黙食、マスク越しの表情を読み取れないなどの影響で、コミュニケーション障害となる生徒、学生の実態調査と支援も必要	親子保健・学校保健	ご意見、ありがとうございます。頂戴したご意見を踏まえ、今後、検討していきたいと思います。
3	コロナ渦において、養育者として問題をかかえる親から養育される子どもの場合、親と過ごす時間が長くなり、親の影響を受けやすくなることは、非常に大きな問題になると思います。精神保健福祉分野の課題番号18でも同様の指摘があります。コロナ渦では支援が届きにくいこともあり、非常に重要だと思います。	親子保健・学校保健	ご意見、ありがとうございます。精神保健福祉分野とも連携し、引き続き検討していきたいと思います。
	<p>親子保健・学校保健グループの提言では「子どもの生活習慣病有病率の増加」について、考えられる解決の方向性として「…長時間メディア利用や運動不足が増加して、肥満も増えていること。親子ともに家庭で過ごす時間が長くなり、今まで以上に子どもは親の影響を受けやすい状況にあること。長時間メディア利用を改善するには、親子でルールづくりをするとともに親の生活習慣も振り返る必要があること。…」などを挙げ、学会への提言では「…各地域でCOVID-19の負の健康影響対策のリーダーシップをとれるよう、学会総会等で毎年シンポジウム等を行うことにより、健康指標等の変化や対応について情報共有を行うとよいと思われる。…」としています。</p> <p><家庭における生活習慣の見直し、メディア利用のルール作りと健康指標に関する情報共有という認知的なポピュレーションアプローチに加え、見直した生活習慣を実現可能にするための社会システム構築を進める必要があると考えます。「運動不足」の解消の問題については、山梨県医師会と山梨県健康運動指導士会が協力体制をつくり、運動指導者とスポーツ医の連携事業の展開を挙げることでできます。（この事例については第81回日本公衆衛生学会総会の自由</p>		<p>貴重な情報提供ありがとうございます。親子保健、学校保健の視点からも、連携、支援など検討していきたいと思います。</p>

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
3	<p>集会「健康運動指導」で紹介され、今後の方向性を示唆する事例として関係方面の注目を集めました。)健康運動指導士養成は昭和63年、厚生大臣(当時)の認定事業として始まりました。30年余を経て国民の健康の維持・増進、疾病予防、介護予防、各世代の体力増進を目的として運動指導、健康運動の普及、医師など医療分野の専門家と連携したメディカルフィットネスの分野等で幅広く活動し、現在は特定健診・特定保健指導における運動・身体活動支援を担い、厚生労働省が実施する健康日本21(第三次)や、スポーツ庁が進める国民のスポーツ習慣の増進・普及における協力活動で広く国民の健康づくりに寄与しています。</p> <p>その一方で、2022年4月に国民生活センターより「パーソナル筋力トレーニングでのけがや体調不良に注意」という調査に基づく情報が健康・体力づくり事業財団や内閣府、日本臨床スポーツ医学会、日本体力医学会などに送付されるとともに、ケガや体調不良を未然に防ぐためにトレーナーなど運動指導者の質を確保する仕組みづくり、業界の自主ガイドラインの策定とそれに取り組む事業者等への行政支援を厚生労働省、経済産業省、スポーツ庁に要望しております。この提言を受けて、健康・体力づくり事業財団では適切な運動指導・トレーニングについて機関誌「月間健康づくり」で特集を組み8月号で専門家の座談会、9月号で専門家によるエビデンスに基づく安全な筋力トレーニング指導の例を示しています。さらに、SPORTEC2022では厚生労働省から講師を招いて「運動と医療の連携」についての講演、「傷害を起こさせない筋力トレーニング」講義+実技のセミナーを展開しました。これを契機にそれぞれの運動指導の有資格者養成課程の見直し、共通のガイドライン策定、有資格者研修事業の展開と、これらを医療関係者との連携体制構築に着実につなげるなどのガバナンス強化が大切であると考えます。</p> <p>このような取り組みがさらに拡大展開できるように運動不足解消に向けたポピュレーションアプローチとともに指導者育成事業展開や研究活動への支援をお願いしたいと思います。</p>	親子保健・学校保健	

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
4	<p>【解決の方向性】</p> <p>「学校は（中略）児童生徒の居場所であり心身の健康を保障するという福祉的な役割を担っていることが再認識された。」とあるが、「心身の健康を保障する」ことは「学校保健」の役割そのものであることから、「保健・福祉的な役割」としてはどうか。</p>	親子保健・学校保健	<p>ご意見、ありがとうございます。</p> <p>次回以降、 「学校は単なる学習の場所だけではなく、児童生徒の居場所であり心身の健康を保障するという保健・福祉的な役割を担っている」という視点でも検討させていただきます。</p>
5	ウィズコロナ時代の母子保健対策を考えるうえで大変重要なモニタリングと考えます。継続したモニタリングを希望します。	親子保健・学校保健	ご意見、ありがとうございます。さまざまな視点からモニタリングを継続したいと思います。
6	<p>ヘルスプロモーションのための3つの戦略（唱道、能力付与、調停）により肺炎をはじめとする呼吸器感染症の予防と管理体制を総合的に構築していく。唱道に関しては、…</p> <p>→リードする、先に立ってとなえる という意味では「唱導」を使うことが多かったので、念のため記しました。</p>	高齢者のQOLと介護予防、 高齢者の医療と福祉	ご指摘の通り「唱導」が正しい和訳です。ご指摘ありがとうございます。
6	2020年の肺炎による死亡が78450人と前年までに比べて大幅な減少を示したこと、その他の呼吸器系の疾患による死亡が5年間に15182人増加したことについては、原因を調べて、今後の政策に活かす必要があると思います。重要な問題だと思います。	高齢者のQOLと介護予防、 高齢者の医療と福祉	その他の呼吸器系の疾患による死亡の増加の90%が誤嚥性肺炎による死亡の増加でした。この背景には後期高齢者数の増加に加え、診断に至らなかったCOVID-19による衰弱による誤嚥による死亡が多く含まれていると考えます。COVID-19関連死はその他の死因にも影響を及ぼしていると考えられ、年齢階級別の各死因による死亡の推移、総死亡から見た超過死亡の分析も行う必要があると考えます。ご指摘ありがとうございます。
7	今後のフレイル対策のあり方を検討するうえで、重要な示唆が提示されているモニタリングと考えます。	高齢者のQOLと介護予防、 高齢者の医療と福祉	コメントありがとうございます。
7	COVID19による健康影響は、若い世代でより顕著であったという報告はとても重要であると思いました。可能であれば、若い世代への健康影響が、将来の日本の高齢者の健康にどの程度影響するかについても明らかになるとよいと思いました。	高齢者のQOLと介護予防、 高齢者の医療と福祉	コホート研究を年代別に幅広く実施することにより、コホート効果の有無を数年後の短期的影響（仮説例：子ども世代の重力がかかる運動不足による身長伸びの抑制、体力の発達の抑制、中年男性のコロナ太りによる生活習慣病リスクの増大、前期高齢者の体力の低下など）から検討し、将来に問題を生じうる課題に早期に対策をとる必要があると考えます。

課題番号	ご意見	グループ名	回答
8	超過死亡よりYLLによる評価の方がふさわしいかもしれない。	疫学・保健医療情報、保健行動・健康教育、国際保健	貴重なご意見ありがとうございます。考察の参考にさせていただきます。
8	高齢者の誤嚥性肺炎による死亡は2021年49,489人、この著しい増加については、早急に原因を調べ対策につなげる必要があると思います。重要な問題と思います。	高齢者のQOLと介護予防、高齢者の医療と福祉	コメントありがとうございます。誤嚥性肺炎による死亡の著増の背景には、診断に至らなかったCOVID-19罹患の影響、COVID-19の影響による受診抑制、介護サービス、特に通所サービス提供の減少、介護サービス利用の減少、身体活動減少などさまざまな要因が考えられるため、それぞれの動向、影響を幅広く明らかにし対策に結び付けることが公衆衛生学会会員に課されている使命と考えます。
9	医療的ケア児の実態を十分把握していない自治体もあると考えられ、全国的な働きかけが必要となる重要テーマ	障害・難病	全国的な働きかけの必要なテーマとのご意見ありがとうございます。実態把握については、医療ケア児支援法の附則の第2条2項にあり、重要なテーマです。先進的に実態調査を行っている自治体もあるようですが、把握すべき医療的ケア児の定義（重症心身障害の有無含め）が異なること等も報告されているため、それらの情報を取りまとめて全国に発信する方法を国においても把握していただくような仕組みができればと思います。
9	箇条書きは7つですが、8つ目に以下を加えてはどうでしょうか。 →子どもや家庭を取り巻く環境の多様化により、地域住民に身近な児童委員の活動が期待される。特に主任児童委員は、全国的な状況をつかみ、医療ケアの必要な児の早期発見・早期対応の推進役として。	障害・難病	考えられる解決の方向性に児童委員特に主任児童委員の活動の重要性を追加するとのご意見をいただきありがとうございます。児童委員が全国で任命されていますが、児童委員の確保の困難さや活動の困難さもあるように聞いています。また地域によっては、児童委員が高齢者を見る時間を多くかけているようです。医療的ケア児のことをまずご理解いただくところから始めることが必要ではないかと思えます。地域の小児科医や関連医療機関からの情報提供も得つつ、負担のない範囲での活動をお願いしていくことが必要と考えます。8つ目の項目に追加することができるかグループ内でも状況把握含めて検討したいと思います。
11	重要な課題であり、かつ分野横断的な対応が必須のモニタリング課題と考えます。	障害・難病	福祉分野での保健や医療、教育、就労等の連携が求められるようになりました。1グループでの活動でどこまで継続していけるか悩みますが、グループ員の負担のない範囲で活動を継続していくようにしたいと思います。
13	COVID-19禍でクラスターが生じた作業所やグループホームなど、また、感染拡大により、精神科病院のデイケアを閉鎖せざるを得ないなど社会資源が利用できない状況が生じたことによる影響の評価と今後解決するための課題整理が必要	精神保健福祉	ご指摘有難うございました。ご指摘の課題を整理して総説論文としてまとめております（公衆衛生学雑誌に投稿中）。

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
13	COVID19流行時の、未就学児を抱える世帯の負担や男女格差等の社会的課題は女格差等の社会的課題解決は、大変重要と思います。関わる要因が複雑であるため、可能であれば、別課題として掘り下げていく必要があると思いました。	精神保健福祉	ご指摘有難うございました。ご指摘の点につきましては、次年度以降のテーマとして取り上げる予定です。
14	学会への提言 海外の言葉とともに「なすに任せよ」という訳(多分)が記載されております。 教養の問題と言われてしまえばそれまでですが、これで何を伝えようとしているのか、意味が理解できませんでした。 レポートですので、一般人がわかるようお願いできたらと思いました。	精神保健福祉	ご指摘有難うございました。以下に本レポート執筆者の回答を提示致します。 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」では、地域共生社会が鍵概念として提示されています。これまでの統合失調症（精神分裂病）の臨床研究は、主要テーマとして社会精神病理的検討、すなわち単に精神疾患のみを扱うのではなく、発病というエピソードを含めた当事者の人生を照射しており、このような人間学的アプローチはもとから地域共生社会を視野に入れております。 その流れにある実践事例から学ぶことは多いと考えますが、システムから入るアプローチとは展開過程が大きく異なることは想像に難くなく、これが「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」のみに依存した地域共生社会を窮屈な概念としています。「にも包括」のような新語を導入し、説明を考えなければならないでしょう。 統合失調症臨床研究は、その誕生自体が当事者の人間としての生を追究するものであります。すでに数十年の歩みがあり、地域共生社会は確実に進んでいます。地域包括ケアシステムの概念からして、もとは臨床精神医学が積み上げてきたもので、「にも包括」では先人に礼を失します。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を錦の御旗のように掲げるのではなく、確実にその方向に進んでいる流れに棹差してはいかがでしょうか。
14	laissez-faire 「なすに任せよ」 →この箴言は、当事者性の反映を望んで記されたものと評価しますが、自由放任主義 ととられてはいけなないので、少しの説明を加えてはどうでしょうか。	精神保健福祉	ご指摘有難うございました。コロナ禍による精神疾患への負の影響につきましては、次年度以降のテーマで取り上げる予定です。
14	パーソナルリカバリーが地域生活支援を考える際の基本的な要素である理由について、もう少し説明があると嬉しいです。 laissez-faire 「なすに任せよ」という提言へのつながりが少し分かりづらいと思いました。	精神保健福祉	ご指摘有難うございました。ご指摘の点につきましては、次年度以降のテーマとして取り上げる予定です。
18	精神疾患を有するなど養育者として問題をかかえる親から養育される子どもの場合、コロナ渦による養育環境の悪化は著しいと予想されます。精神疾患の親から、その子どもへの精神疾患の世代間連鎖は以前から指摘されている問題です。本課題と同様の指摘は、課題番号3にも取り上げられています。コロナ渦では支援が届きにくいこともあり、重要な問題だと思います。	精神保健福祉	ご指摘有難うございました。ご指摘の点につきましては、次年度以降のテーマとして取り上げる予定です。

課題番号	ご意見	グループ名	回答
20	社会格差が歯・口腔の健康に及ぼす影響については、継続的にモニタリングされることを希望します。	口腔保健	「社会格差がもたらす歯・口腔の健康課題」は、2022/2023年度においても、継続してモニタリングすることにいたしました。
22	簡条書き 1 と 2 は学会への提言と思われるので、 →学会への提言： 1. …… 2. …… としてはどうでしょうか。	口腔保健	次年度の報告書では、形式を統一いたします。
23	今後の課題のひとつであるICT等の活用は歯科保健分野でも重要です。課題30と共同で取り組むことを視野にいれると良いと思えました。	口腔保健	ICTを活用した歯科口腔保健サービスは、重要なテーマと認識しております。しかしながら、2021/2022年度のモニタリングにおいては、調査研究としての公表数が少ないことが明らかとなりました。本テーマについては、しばらく口腔保健グループにてモニタリングを継続し、共同実施の検討に向けた情報収集を行います。
24	若者ではワクチンのメリットとデメリットを特にオミクロン株では慎重に評価する必要がある	感染症・食品衛生・薬事衛生	ご意見ありがとうございます。ワクチンのメリットは当初より多くの報告がなされていますが、デメリットに関する知見は未だ収集の最中にあります。発熱や倦怠感という短期的な副反応だけでなく、中長期的な事象についても引き続き調査したいと考えます。
24	新型コロナワクチン副反応の治験の蓄積は特に重要。学会として何かできるとよい。	感染症・食品衛生・薬事衛生	ご意見ありがとうございます。ご指摘の通りと我々も考えます。学術的な観点だけでなく、実務的な立場からもこれらの情報の蓄積を行うべきと考えます。
25	今後の対策が求められる重要なモニタリングと考えます。できれば継続的にモニタリングしてもらえますと有難いです。	感染症・食品衛生・薬事衛生	ご意見ありがとうございます。M痘（サル痘）及びマダニ感染症につきましては、今後暫くの間（数年間）継続的モニタリングの必要性とその実施を明記致します。
25	人獣共通感染症（サル痘、マダニ感染症）への提言 →人獣共通感染症（M痘、マダニ感染症）への提言 確か、WHOで、特定の動物名ではよくないとのことでM痘と改名されたと思います。 https://www.cbsnews.com/news/monkeypox-mpox-new-name-who-cdc/	感染症・食品衛生・薬事衛生	ご指摘有難う御座います。WHO勧奨及び国の表記を踏まえ、今後は、『M痘（サル痘）』と記載致します。

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
26	オンライン服薬指導は需要が高いテーマと考える。	感染症・食品衛生・薬事衛生	ご賛同いただきありがとうございます。引き続きご助言よろしく申し上げます。
26	<p>「情報通信機器等による服薬指導（オンライン服薬指導）について」</p> <p>今年度、内閣に医療DX推進本部が設置され、10月には第1回会議も開催されて、働きかけるよい時期と感じております。</p> <p>このオンライン服薬指導についても、より患者・医療者のニーズを取り込み、実効性のあるものとするために、こちらのレポートに提示されたことのほかに、下記についても対策を進める必要があると考えました。</p> <p>① ICTやDXに関する薬剤師をはじめとする医療・行政・福祉等の関係者や、住民向けのわかりやすいPR,情報提供、研修の実施。</p> <p>② 「誰も取り残さない」ため、視覚・聴覚等の障害を持つ方や、言語の異なる方たちの活用の検討と提供。（例えば聴覚障害：障害の影響で漢字が読めない方もいるため、ふりがな付きの設定も選択できる、など）</p> <p>③ かかりつけ薬剤師など24時間対応が求められることもあり、ユーザーが容易かつ安全にアクセスできるシステム。</p> <p>結核のDOTSから、保健所等ともネットワークがつながるシステムとなれば、と考えました。</p>	感染症・食品衛生・薬事衛生	<p>ご賛同いただきありがとうございます。ご指摘いただいた点につきまして、今後のレポート作成に参考にさせていただくとともに、来年度の公衆衛生学会の公開シンポジウムに向けてグループ内で検討を進めたいと存じます。</p> <p>引き続きご助言よろしく申し上げます。</p>
27	オミクロン株では致死量やYLLは非常に高いとは言えないのではないか。	健康危機管理	WHOによるCoronavirus Dashboard(https://covid19.who.int)を見ると、全世界の流行ウイルスがほぼオミクロンとなった2022年2月以降においても2021年に比べ低いものの死亡数はピークを形成しています。また、我が国の超過死亡を経時的に見ても (https://exdeaths-japan.org/graph/weekly) 2022年後半においても顕著な増加が見られます。オミクロンにおいても死亡に大きなインパクトがあると言えるのではないのでしょうか。

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
28	「課題2の国際情勢および我が国における準備不足から考えて、緊急度は極めて高い。核危機についても例外とせず対応すべきである」という指摘、「政府の議論に連動して、知見の収集、健康危機管理上の課題と方策を提言すべき」という学会への提言、いずれも尤もだと思います。	健康危機管理	コメントありがとうございます。周辺事態、国民保護事案について、学会、アカデミアも関わるべきと考えております。
29	平時からの健康危機管理体制を考えるうえで役立つモニタリングだと考えます。	健康危機管理	ご賛同いただきありがとうございます。時宜を得たモニタリングと課題抽出及び実効性ある課題解決の方向性を目指します。
29	AHAに基づく体制構築に向けた技術的支援を行う体制を構築する。 →AHAは ハザード・アクティビティ・アナリシスでしょうか。周知のことならお煩わせて済みませんが、米国心疾患協会かなと一瞬思いましたので。	健康危機管理	「AHA」は、「オールハザード・アプローチ」を略したものです。一般的な略語ではないのですが、字数の都合上このように略させていただきました。なお、ご指摘の箇所の6行上に「オールハザード・アプローチ（AHA）」と記しております。
31	都道府県が実施する県民健康・栄養調査の課題について共有することは大切なことであると思います。 また、さらに一歩踏み出して、それらの課題を解決するための方策を議論する場を学会内に設定することや、適切な評価や対応をすることができる行政栄養士の育成や技量の認定制度の創設なども求められると考えます。	生活習慣病・公衆栄養	活動の評価、また貴重なご指摘ありがとうございました。ご指摘を踏まえ、今後の活動について以下のように検討を行っています。 (1) 研修・認定制度について、栄養士会や保健医療科学院などで実施されている既存の事業（下記URL）の調査を行うとともに、必要であれば、その内容について提言したり、本学会における議論も行います。 https://www.dietitian.or.jp/career/certification/ https://www.niph.go.jp/entrance/r4/course/short/short_hoken10.html (2) 行政栄養士の状況、大学などの研究機関に所属する栄養士（管理栄養士）の状況の実態調査 (3) 都道府県民健康・栄養調査に関する、計画・実施・分析に関わる課題・成功や

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
31	<p>都道府県が実施する県民健康・栄養調査の課題共有</p> <p>サーベイとして、誤差、バイアスについて指導できる公衆衛生専門家が少ないのが課題だと考えます。</p> <p>クラスター数が少なすぎる、PSUのサンプリングに偏りがある、各層のPSUのサンプリング数が少ない、誤差を考慮していない解釈がある、バイアスを無視している計画があるという状況が続いています。</p>	生活習慣病・公衆栄養	<p>環境面について調査</p> <p>都道府県民健康・栄養調査について、ご指摘の通り、統計的な根拠なく調査地区数の設定など行われている自治体も多い可能性が高いのですが、以下の点について調査を実施し明らかにする必要があると考えています。</p> <p>(4) 本調査の適切な実施に係る予算や協力率などの問題や、人事異動の問題</p> <p>(5) 曝露評価である栄養調査方法に係る問題点</p> <p>(6) 都道府県民健康・栄養調査の解釈や各種計画における指標やデータの活用に関し、どのような分析（指標の算出・血液データや栄養摂取状況、生活習慣との関連性の分析など）がなされているのか、施策への反映の状況、研究者の支援がある自治体とない自治体との違い、衛生研究所ないしは公立研究所を持っている自治体とそうでない自治体との違い等</p> <p>(7) 科学的に妥当な調査を実施し、調査結果に基づく施策化をしている自治体の事例</p> <p>(8) 調査のデジタル化の状況</p>
32	<p>リモートワークに関するモニタリングは時宜を得た課題と考えます。継続的にモニタリングいただけますと有難いです。</p>	産業保健	<p>そのようにいたします。ありがとうございます。</p>

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
32	<p>大変素晴らしい記述だと感じます。長いので、項目別に記してはどうでしょうか。</p> <p>例えば、→</p> <p>(1) リモートワークによる弊害として、ストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同僚、上司との会話の時間や、対面での表情等を含むコミュニケーションが得られないことによるストレス ・座業が継続し時に休憩時間も確保できないなどの疲労の蓄積のおそれによるストレス <p>リモートワークへの過剰な適応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット環境に親和性が高すぎるための弊害（仕事と見せかける、飲酒、喫煙をしながら仕事をしてしまう） <p>以上の解消方策として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーション、概日リズムの良い維持 <p>(2) リモートワークの作業環境の問題として、環境とその整備の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートワーク用の専用居室がない（家族の声や後ろ姿が映る） ・作業用のデスクと椅子がない（卓袱台やソファで代用して頸肩腕障害や腰痛） ・作業用の照明がない（視力低下、眼精疲労） <p>個人環境の露見の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記による個人情報や生活様式の露見と、それに対するハラスメント <p>以上の解決方策として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業側がフリーアドレスなどオフィス空間の有効活用を図る ・代償としての、交通費、光熱費を企業側が出す ・社員の実績等を実態に合わせ妥当に評価すること、人事管理、健康管理などのマネージメントを十分図る 	産業保健	<p>ありがとうございます。ご意見を参考に、今後は、わかりやすく文章を整理して記載いたします。</p>

課題番号	ご意見	グループ名	回答
34	柔軟剤に含まれるマイクロカプセルがマイクロプラスチックであることを初めて知りました。現時点では知見が限られていると思いますが、環境影響からの健康影響についての研究の推進や、知見の整理を進め、学会として情報発信ができれば理想的であると思いました。	環境保健	環境省や厚生労働省でも対応が模索されている課題であり、引き続き知見の整理を進めたいと思います。なお、環境負荷の観点でのインパクトは小さいかもしれませんが、Y-90-マイクロスフェアによる肝がん放射線塞栓療法やアルファ線を放出するナノ粒子によるがん治療薬など新たな展開も見られているところで、リスクの側面も注視したいと思います（2023年1月現在では、この観点での検討例は見当たらないようです）。
36	化学物質の暴露や生活環境など →化学物質の曝露や生活環境など Exposureなので曝露としてはどうでしょうか	環境保健	用語のご指摘ありがとうございます。様々な分野の研究者が関わっており用語の統一が十分ではありませんでした。「曝露」は常用漢字の範囲外となっています。このため公用文に掲載するには、文化審議会建議「公用文作成の考え方」や「常用漢字表」を変える必要があると考えられます。用語に関して分野によって異なる現状にあります。例えば、「当量」と「等量」に関して、「当量」は何らかの指標との比較が含意にあるのに対して、「等量」は同じと見なせる観点であり、違いがあるとも考えられますが、学生の負担にならないような整理が求められるところであり、その観点でも貢献したいと考えています。
36	胎児期から小児期にわたる子供たちの成長発達に影響を与える環境要因を明らかにするための大規模調査において、Covid-19に関連した調査を追加する必要があるとの指摘は、非常に重要だと思います。	環境保健	エコチル調査は、研究仮説をもとにデザインされており、当初の計画を尊重する必要があります。このため、追加調査などはその必要があると考えられても、外部評価結果を踏まえるなど正当な手続きを踏む必要があります。ここでの言及はCOVID-19の蔓延に関して、環境保健面からも検討が必要ではないかの考えを示したものです。いずれにしても、このような検討は、現在、エコチルに関わっておられる諸先生方から動向を伺いながら進めて行く必要があると思います。

課題 番号	ご意見	グループ名	回答
38	<p>自閉症スペクトラム障害を有する人は職場でいじめの被害にあいやすいという指摘、および自閉症スペクトラム症（ASD）では希死念慮や自殺の頻度が高いという指摘は非常に重要だと思います。一般国民の間でASDへの関心が高まっていることから、ASDを有する人への支援、偏見、スティグマへの対策も考えていく必要があると思います。</p>	<p>発達障害</p>	<p>貴重なご指摘ありがとうございます。ご指摘の点は、課題番号41「発達障害概念の不確実さと公衆衛生活動・研究に求められる配慮」でモニタリングレポートした内容と密接に関連しております。発達障害者支援法における「発達障害」の扱われ方につきましては以前の年次報告書でモニタリングレポートしたところです。「メタボ」や「ロコモ」の場合は、一般国民への認知度が上がることは、個々人が正しく理解して疾病予防や健康増進に取り組むことを促し、正のスパイラルが回りました。ASDの場合、一般国民の関心の高まりはおおよそ他人事としての関心事であって、理解の深まりを意味すると言えない状況で、場合によっては偏見やスティグマを強化してしまう懸念があると思われます。ご指摘を踏まえて、概念の問題、望ましい社会の方向性、偏見やスティグマとその対策について、モニタリング・レポート活動を行います。</p>
42	<p>成人の発達障害は産業界でも課題であろう各分野が協働する様学会に期待する。</p>	<p>発達障害</p>	<p>ご意見ありがとうございます。課題を抱えている職場は多いですので、課題解決に資するよう、モニタリング・レポート活動でのグループ間協働など働きかけていきたいと思っています。</p>
42	<p>ボーダーラインという表現にすると、カットオフギリギリの成人だけを対象とするだけの印象を与えるため、グレーゾーンという表現ではいかがでしょうか。成人の発達障害者はグレーゾーンであっても社会適応上困難を呈している方が多いので。</p>	<p>発達障害</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。次回よりグレーゾーンという表現に変えさせていただきます。</p>